

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.29

ある日の朝。駐車場に車を止め、何気なく振り返ると……。道路を挟んだ木々の中にひときわ明るいオレンジの光。それも、相当高い位置にです。私は今まで気づいたことがなかったので、びっくりしましたが、通りかかったクラスの生徒は、知っていました。この街燈を見た瞬間、私の頭の中は「アッ！街燈あと野だ！」、このフレーズで一杯です。ということで、今日は、ファンタジー2冊の紹介です。

『ナルニア国ものがたり』 C.S ルイス 瀬田貞二 訳

全7冊のシリーズですが、とにかく面白い！
「ナルニア」という国の一大叙事詩でもあります
が、「魔法大好き、神話大好き、不思議大好き、
こんな話読みたかった！」少年少女の心をわしづ
かみにして離しません。今から15年ほど前から
順次、映画化されています。（全部ではありません
んが……）映画化されると聞いて「えっ、できるの？」と半信半疑。それほど雄大で、
美しい物語です。この発端となった巻、「魔術師のおい」。その中に、この、「街燈あと
野」につながるエピソードが出てきます。その、シーンを彷彿とさせるオレンジの光が
木々の間に見えるのですから、朝からワクワクが止まりません！まるで、白井中が、ナル
ニアにつながっているような、そんな錯覚すら覚えます。（小さいとき、本の中のシー
ンを再現してはドキドキしていたあの感じですよ！）有名な「ライオンと魔女」ももちろん面
白いです。ぜひ、読んでみてください！



『モモ』 ミヒャエル・エンデ 大島かおり訳

この、コロナ禍の中、話題に上がっていた本ではありますが、そんな事情はさておき、一度は読みたい、読んでもらいたいそんな一冊です。サブタイトルに、「時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語」とあるように、この物語のキーワードは「時間」です。幸せになるために次々と編み出される人間世界のシステム。ところが、「人」は幸せになるところか、「忙しい」「時間がない」「ひまがない」と少しも幸せではありません。そんな世間の流れと別の時間を生きる「モモ」。お金もないし、親もいない。それでも「モモ」は、十分幸せです。さあ、そんな「モモ」が、「インチキで人をまるめこむ計算」を駆使する「灰色の男たち」から大好きな町の人々の「奪われた時間」を取り戻すために立ち上がります。1973年初版の本ですから、かれこれ、50年ほど前の作品です。作品の最後に書かれた「作者のみじかいあとがき」には、次のような一節があります。「わたしのいまの話を、」とそのひと（この「モモ」の話を作者にしてくれた旅人の設定です。）は言いました。「過去に起こったことのように話しましたね。でもそれを将来起こることとお話ししてもよかったんですよ。」慧眼です。（各クラスで紹介した「世界で一番貧しい大統領のスピーチ」にもつながりますね！）

